

科目区分： 教職専門科目
授業科目名： 部活動指導実践論

授業での学びと地域社会との連携

－ 様々な授業の有機的なつながりと音楽を通じた社会貢献 －

音楽教育講座：市川克明

1. 授業の基本情報

担当教員名：市川克明（音楽）
登録学生数：103名（うち音楽グループ14名）

当授業は、小学校サブコース（69名）、中等教育コース（30名）、特別支援コース（4名）の1回生対象（2回生1名を含む）である。「学校教育において大きな役割を果たしている部活動について、その意義や役割を理解するとともに、部活動を取り巻く諸課題の改善方策について自己の考えを持ち、よりよい部活動の運営や指導に活用できる実践的指導力を身に付ける」ことを授業目的としている。

特に近年は、部活動を取り巻く問題は大きく取り上げられ、文部科学省をはじめ様々な行政機関などでも検討が重ねられている。

2. 授業研究の内容

第1回目から第3回目までは履修者全員を対象とし、部活動に関しての一般的な内容を扱い、その中で、音楽グループと体育グループを履修生の希望調査により確定させた。第4回目以降はそれぞれのグループに分かれて実施した。

第4回目から8回目までは部活動を取り巻く様々な問題点（体罰、パワハラ、セクハラ、いじめ、教員の時間外労働、保護者対応、外部指導員、謝礼、収賄など）をあげ、具体的な事例をもとに履修生自らの体験などをもとにグループワーク、あるいは個人での調査を行

い毎回発表させた。授業の冒頭で前回授業時に課したコメントシートを回収、場合によってはその内容を発表させるなど、省察の時間を設け授業内容を振り返ることを重視した

第9回目以降は、実際に近隣の小中高等学校を訪問し、部活動（課外活動）の実施の様子、指導を見学し、顧問あるいは指導者と直接対話し、質疑応答を行い実りある見学を行った。昨年度の授業では、愛媛県立伊予高等学校吹奏楽部、松山市立久米中学校、松山市立味酒小学校を訪問したが、本年度は次の3校を訪問した。

松山市立味酒小学校	12月16日（土）
愛媛県立松山南高等学校	1月20日（土）
私立松山東雲中学高等学校	1月29日（月）

（松山市立久米中学校訪問も予定されていたが、インフルエンザによる学級閉鎖により中止）

昨年度、本年度ともに、小学校、中学校、高等学校、および私立学校と様々な校種の部活動を訪問することを主眼に置きこれらの訪問校を決定した。小中高、中高一貫、あるいは公立私立により、部活動への取り組み方、運営方法、保護者への対応などが異なるため、履修生にとっては極めて有意義な訪問となった。

第15回目の授業では、あらかじめグループ分けをしておいたグループごとに、各学校を訪問した際に調査した内容をプレゼンテーションの形で発表した。



2017年12月16日（土）松山市立味酒小学校金管バンド部見学の様子

質疑応答の中で、指導法、運営方法、保護者対応、生徒指導、様々な問題点などに関して活発な議論を行い、その後総括として、コメントシートで履修生それぞれの意見、および「理想とする部活動指導教師像」について記述させた。

当授業は部活動の指導教師という側面のみではなく、教員という職業そのものについての資質、理想、現実、児童生徒とのかかわり、保護者対応、問題発生時の対応など実践的かつ具体的現実的な、言い換えれば「直接的に役立つ」授業実践であったと言える。

3. 履修生アンケートより

毎回のコメントシート、および最終回授業で実施したコメントシート内のアンケートを参考に要約した。最終回授業でのコメントシート（アンケート）回収率は、93パーセントである。

・授業内で取り扱った具体的な問題の事例など、普段であれば見過ごしてしまうような内容を取り扱い、学校現場というものを身近に感じることができた。

・授業内で出た、コンプライアンス、ディスクロージャー、リスクマネジメントという用語を初めて知ったが、問題を起こさないこと、また起こった時の対応ということに関し

て、学校現場だけではなく社会生活でも必要なことだと思った。

・実際の部活動の現場を見ることができ、様々な先生の素晴らしい指導に触れることができたのは大きな収穫であった。

・児童生徒と正面から向き合う先生方の指導を見ることができとても有意義だった。

・授業内で先生が触れていた、「自分の成功体験のみをもとに教育をするな」という言葉が印象に残った。

・熱意のあまり体罰やパワハラなど、普通であればいけないことだとわかっていることが実際に起こってしまう、そのことを具体例をみて、私も気をつけなければならないと感じた。

・授業内で先生が言っていた "All or nothing"、という言葉が印象的だった。ゼロか100ではなく、答えはその間に無限にある、ということ、これは教員だけではなく社会生活にも生かせると思った。

・学校とは閉鎖的で、教員は子どもにとって権力者である、そういうことを授業で聞き、教員になった時、実際に指導する際には特に気をつけなければならないと感じた。

・コンクールや大会など実績のある教員や指導者は、校長や教頭、他の先生からも一目置かれ、問題があっても見過ごされたり目をつぶってしまったたり、ということが実際に起きていることを目の当たりにし、自分が生徒であった時には気づかないような様々なことを考えるきっかけとなった。

・見学訪問し、実際に指導にあたれている先生方の熱心な取り組みをみてとても参考になり、自分自身の理想的な教員像が見えてきた。

・教員の長時間労働の問題は授業内でも何度か取り上げられたが、部活動でも同じように長時間の拘束が行われている実態を知ることができた。2×5も5×2も10となる、この言葉が印象的だった。味酒小学校では実際に本当に一日30分間という限られた活動時間であ

れだけの実績をあげているわけで、短い時間で効率的な練習をすることの大切さを知った

・「こうでなければならない」とかく教員は思ってしまうがちで、そうならないよう柔軟な思考を持つことの重要性を知った。

・吹奏楽や運動系部活動では身体を接することもあり、セクハラが起りやすい、そんな事例を見て本当に気をつけなければならないと感じた。

・小、中、高、一貫私立と様々な学校を見学し、また、様々な先生の指導を見て、それぞれ雰囲気も指導法も異なるのをとてもよく意識できた。

4. 「地域社会を核とした教育と研究のつながり」について

既述の通り、近隣の小中高等学校（私立学校を含む）を訪問することにより、学生にとっては実際の教育、あるいは部活動指導の現場を直接見ることができたのは、大きな影響を与えたように思う。また、訪問した各学校の部活動にとっては、日頃あまり関係がない大学生との関わり、部活動そのものを研究の対象にしている、ということが非常に新鮮である、との意見をいただいた。

当授業は昨年度より始まり今年度が2回目の開講である。内容的には、ここ数年来多く報道されている部活動に関しての様々な問題点を直接的に扱い、地域の学校現場を実際に見ることにより、単に動画や文献を見るという授業ではなく、フィールドワーク的な要素を取り入れている。このことは、将来教員をめ

ざす学生にとり、地域社会とのつながりを意識したという点では画期的な授業であると言える。

反面、受け入れ側としては、このような授業の取り組みはまだ全国的に見ても黎明期で、まだまだ社会的に認知されているとは言えない状況である。したがって、訪問する学校も、担当教員の個人的なつながりによるもので、より一層地域社会、具体的には近隣の学校との緊密な関係を授業だけではなく、部活動指導という点でも推進することが必要である。

5. 他授業、研究室での取り組みとの連携

私の研究室では毎年在学生および卒業生、さらに市内在住のプロフェッショナル演奏家と連携し、アウトリーチ活動や演奏会を実施している。

また、当授業履修生の何人かは同時に「器楽アンサンブル」の授業も履修しており、「実際の演奏」も行い、さらに3年生では「指揮法」を履修することもある。これらの授業の中でも吹奏楽指導法、吹奏楽部マネジメントなど「部活動指導実践論」の内容を敷衍し、より実際的な内容の科目になるよう、それぞれの授業が独立したものではなく、有機的につながりのあるものとなるよう、授業内容をシステマティックに組み立てている。

それらの集大成として、地域の高齢者住宅での訪問演奏、あるいはNPO法人との連携、地域の音楽活動グループとの共演、また、研究室主催の演奏会を実施している。「部活動指導実践論」で習得した内容を、このような演奏会の企画・運営・実施、連携相手との渉外などで実践し、将来教員になった時に極めて有益な活動を行っている。これは、音楽のみを専門とする音楽大学在籍の学生には経験することが困難で、ある意味では教育学部の音楽講座ならではの取り組みであると言える。すなわち、少人数で自らの専攻楽器だけではなく、様々な楽器を知り、指導法、編曲、作曲など、より実践的な音楽指導法を学べるという特色を生かし、音楽を通じた地域社会と

のつながりを鮮明に意識できる機会であるといえる。

実践で訪問した学校の児童（アンコール曲で共演予定）を招待している。

平成29年度の演奏会・アウトリーチ活動

- 平成29年
- 7月1日 土曜夜市での演奏
 - 7月23日 伊方町大浜地区夏祭りでの演奏
 - 8月7日 西予市夏祭りでのオカリナアンサンブル「響」との共演
 - 12月25日 松山市内高齢者住宅「ドマーニ」でのクリスマス会での演奏
- 平成30年
- 3月10日 「山頭火の日」、NPO法人「まつやま山頭火倶楽部」主催の式典での演奏
 - 3月11日 研究室主催の演奏会、NPO法人「えひめ311」との共演



アウトリーチ活動

なお、3月11日開催予定の研究室主催演奏会では、東日本大震災後愛媛県内に居住している福島出身のグループであるNPO法人「えひめ311」との共催で、松前町内在住の小中学生、および西条市の高校生と研究室の学生が共演する予定である。また、アウトリーチ活動を行った高齢者住宅在住者や部活動指導実

Scientia
ehimensis

愛媛大学教育学部 音楽講座 管楽器・音楽学研究室
第3回 レストロ・アルモニコ演奏会

L'estro armonico

2018
3/11 (Sun)
開場 13:30 開演 14:00
入場無料
松山市総合福祉センター 大会議室

出演者

- 市川 実由 (フルトン、愛媛大学専攻生)
- 渡井 宗英 (クラリネット、卒業生)
- 田頭 綾子 (フルトン、卒業生)
- 藤山 あやか (セリア、卒業生)
- 伊藤 平哉 (クラリネット、賛助)
- 小橋 伊織 (クラリネット、賛助)
- 岸 洋一郎 (フルトン、賛助)
- 高田 辰 (フゴット、賛助)
- 高木 康彦 (フゴット、賛助)
- 門田 菜 (三味線、済美高等学校3年)
- 渡部 明歩 (歌謡、伊予市立双海中学校1年)
- 渡部 明理 (歌謡、伊予市立双海小学校3年)
- 新築 隆 (吹奏班、NPO法人えひめ311)

演奏曲目

- V. マンショウ作曲 管楽器と選弾ピアノのための小協奏曲 Mk. VM III-4
- W. A. モーツァルト 作曲
フルトン・クラリネット・ホルン・フゴットののための協奏交響曲 Ev-Der KV 207B
- 福島民謡「相馬鼓歌」(歌・三味線と共演)
- 「川の流れるように」(三味線)
- 八木澤教司「カプリッチョ」(クラリネットアンサンブル) ほか

主催：L'estro armonico
(愛媛大学教育学部音楽講座管楽器・音楽学研究室)
共催：NPO法人えひめ311
後援：NPO法人まつやま山頭火倶楽部
お問い合わせ：089-927-9448
ichikawa@gmx.de (市川)

Musica instrumentalis apud scientiam ehimensis

2018年3月11日(日)開催の研究室主催演奏会

6. 授業の改善点

2年目となる本年度の授業は、昨年度の反省も活かし、内容の充実したコメントシート課題をめざした。求める記述内容をより具体的かつ明確に周知し、回収率も極めて良好であった。

今回訪問した部活動は、どの学校も熱心に取り組み、部員の人数も多く、理想的な部活動運営が行われていた。しかし、現在の学生の将来的な配属先がそのような理想的な環境にあるとは限らない。特に、児童生徒数の減少により、非常に少ない人数の部活動を運営せざるを得ない学校もあり、そうした意味では、むしろ問題が多い部活動を見学した方がよいのでは、と思うことも事実である。

前述の学校訪問での問題点、すなわち、訪問する学校が担当教員の個人的につながりによるもので、非常に限られており、当然、部活動もほとんどが管楽器の専門家、あるいは、

ベテランの教員であり、「理想的な部活動」を見るには適しているが、そうではない過半数、あるいは、それ以上の割合の「指導が困難な」部活動を見学した方が、履修生にとっては学ぶことが多いような気がする。

将来的には、この授業が社会的に認知され、どの学校でも訪問し見学できるような体制ができることを期待したい。

さらに、開講年次が1回生後期で、履修生はまだ高等学校でのそれぞれの（成功）体験をもとに事象を捉える傾向がある。また、大学入学後半年で、教員として、あるいは音楽の専門性においてもまだまだ十分な能力を有しているとはいいがたい。さらに、当該授業が水曜日2限の開講のため、各学校の部活動の実施は休日か夕方であり、学校訪問の際には土曜日あるいは平日の夕方に実施せざるを得ず、授業の時間変更が必要になることが大きな問題であった。

したがって、2019年度入学生からは3回生後期、月曜5限に移動することが検討されている。これにより、上記の問題は概ね解決されるように思う。